



# 同好会ひろば

第297号  
R5. 6. 29  
No.2

## 今年度のフィールドワークについて

「2学期の授業に役立つ教材」をテーマに各推進部会の先生方が中心となって行先を決めています。今年度は、新型コロナウイルスの規制が緩和されたことで、授業力アップ研修グループに参加している若手会員にも裾野を広げたいと考えております。本来であれば、より多くの先生方に参加していただきたいのですが、少しずつ参加していただける先生方を増やしていきたいと考えております。詳しい行先については、後日、ホームページやLINE等でお知らせします。

## 第1回授業づくり講座 6月8日(木) 小学校@イーブルなごや 中学校@オンライン

第1回授業づくり講座～テーマ～「わくわく!子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」が6月8日に開催されました。社会科同好会員のみなならず、たくさんの先生方にご参加していただきました。

### 【小学校】講師 荒子小学校 山口 喬史 先生

「教科書をどのように活用するといいいのか」という言葉から講座はスタートしました。授業を進める上で一番身近な“教科書”ですが、自分で教材開発したり、自作の資料を作成したりすると教科書での教材研究がおざなりがちになってしまいます。山口先生から“教科書”の教材研究のポイントを、講義や模擬授業形式、演習などで、分かりやすく教えていただきました。



教科書の教材研究の第一歩は、教科書を再構成することが大切だと教わりました。再構成するポイントは、①資料の提示順を工夫すること②資料の一部を加工することです。その後の質問の時間には、「わたしたちのきょうど」や動画の活用の仕方などについてもお答えいただき、授業づくりについて深く学ぶことができました。

### 【中学校】講師 戸笠小学校 服部 宏治 先生

子どもが目を輝かせる授業を行うためには、教師自身が目を輝かせ、楽しんで授業することが大切であるということでした。そのために導入を工夫し、自分の好きなものと関連するものを取り入れたり、子どもが興味をもちそうなものを取り入れたりする工夫をされていたそうです。



導入だけでなく授業全体についてのお話では、子どもが主体的に取り組めるような授業を紹介していただきました。「中国・四国地方」の授業では、仮想地域の地域おこしを考えることや、「中部地方」では、あるテレビ番組を用いた地域紹介を行う授業づくりについてお話いただき、どれも子どもが楽しめそうで参考になるものばかりでした。

今回の講座では、若手の先生にたくさん参加していただきました。授業づくりに生かしていただければと思います。

### 【第297号 紙面】

第1回授業づくり講座	.....	(p1)
『日々雑感』八熊小学校 山中 俊武 先生	.....	(p2)
小・中学校部会	.....	(p3)
子ども輝く社会科授業 今後の予定	.....	(p4)

## 日々雑感

### 八熊小学校 教頭 山中 俊武 先生

2016年10月21日。学級の子どもたちが、戦後に行われた3度のオリンピックを時間的な区切りとして、復興の歩みを追究してきた社会科学習は、全小社研名古屋大会の場で結びを迎えた。「2020年の東京オリンピックでは、世界にどのような日本を見せるとよいだろうか？」これまでの学びが導いた最後の問いに対して、子どもたちは2020年に開催される東京オリンピックに思いを馳せ、更に成長した日本を世界に向けて発信したいという思いを自らの言葉で綴った。そこに記された言葉には、明るい未来への願いが溢れていた。

迎えた2020年、東京でオリンピックが開催されることはなかった。世界的な感染症拡大により、オリンピックだけでなく、私たちが当たり前で過ごしていた日常は、簡単に奪われていった。刻々と増える感染者数に怯えながら、何をすることも周りの人の目を気にする日々。子どもたちの思い描いた明るい未来は、そこにはなかったようにすら感じた。多様な課題が山積する社会で、未来は予測困難であると言われて久しいが、あの時、学級の子どもたちだけでなく、私たち教師も誰も予測できなかった未来が待っていた。

しかし、戦後の復興の歩みがそうであったように、絶望感や閉塞感の中でも、前を向く人々の営みが、少しずつ社会を変化させていった。日常を取り戻したい、もう一度、人と人とのつながりを感じたいと願う人々の工夫や努力が社会を支え、失われたはずの東京オリンピックも、形を変えて1年遅れて開催された。私自身も、3年ぶりに学校現場に戻ると、学校には以前と何も変わらない子どもたちの笑顔があることに気付いた。様々な制限がある中でも、不平や不満を言うのではなく、今、自分にできることに精一杯取り組んできた子どもたちと、子どもたちの思いを受け止め、知恵を出し合い、工夫や努力を重ねた職員の方々が、学校という場所を変わらず残してくれているのだらうと強く感じた。

2024年、パリで開催される次のオリンピックが1年後に迫っている。「2024年、パリオリンピックの頃には、どのような社会になっているだろうか？」今、あの時の学級の子どもたちに問いかけたら、どのような答えが返ってくるだろうか。未来は予測できないことを誰もが実感した今だからこそ、子どもたちには明るい未来を願ってほしい。そして、社会科は、子どもたちが学びを通して明るい未来を思い描く教科であり続けてほしい。最後に、私自身も常に前を向き、目の前の課題を一つ一つ解決していくとともに、皆さんとともに、これからも学び続けていく教師でありたいと思っている。

## 授業力アップ研修・ステップアップ研修

### ○授業力アップ研修

1～6年目の先生方を対象に、グループをつくり、リーダーの先生と共に月に一回程度集まります。授業づくりや学級経営のポイントを学んだり、普段抱えている悩みを語り合ったりします。同年代の先生方との横のつながりができる研修になっています。



### ○ステップアップ研修

体験記録を通した研究にチャレンジする先生方向けの研修です。担当の指導者が一人つき、一年間通して一緒に研究を進めていきます。また、年に数回、ステップアップ研修全体会を開き、体験記録に挑戦する意義や書き方のポイントを知ることができるようになります。



## 小学校部会・中学校部会 5月26日(金) 小学校@小碓小学校 中学校@イーブルなごや

今年度社会科同好会では「持続可能な社会の創り手となる子どもを育てる社会科学習」を研究主題とし、「問題や課題の解決に向けて、主体的に学び続けることができる子ども」を目指し、「主体的に学ぶための学習段階の設定」と「学び続けるための学習問題(学習課題)と学習活動の設定」を工夫して研究を進めていきます。また、手立ての有効性を検証するために、目指す子どもの姿に関わる資質・能力である「学びに向かう力・人間性」に関わる観点である主体的に学習に取り組む態度の評価がどのように変容したのかを見取っていきます。



### ○小学校部会について

小学校部会では、各学年部会で考えた「主体的に学ぶための学習段階の設定」「学び続けるための学習問題(学習課題)と学習活動の設定」「主体的に学習に取り組む態度の評価の仕方」について、各学年部会の推進部員が3グループに分かれて協議を行いました。

それぞれのグループでは、まず「主体的に学ぶための学習段階の設定」において、目指す子どもの姿に至るためには、いくつの段階が必要であるのかを中心に協議されました。6年生部会では、「つかむ」「調べる」「まとめる」の3段階。5年生部会では、「産業に出会う」「つかむ」「調べる」「まとめる」「考える」や「出会う」「調べる」「まとめる」「語り合う」などの4~5段階。3・4年部会では、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の4段階が提示されました。次に、どのように評価を見取るのかという「主体的に学習に取り組む態度の評価の仕方」について協議されました。協議では、「主体的に学習に取り組む態度の評価」は、「主体的に問題解決しようとする態度」と「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」の二つを見取る必要があることから、「まとめる」段階の後にもう一つ段階を設けて、「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を評価していかなければならないのではないかと「主体的に学習に取り組む態度の評価」の方向性について意見が出されました。

### ○中学校部会について

中学校部会では、各分野から今年度の研究の方向性について提案がありました。

地理的分野グループでは、個別最適な学びを実現するために、スタートとゴールに向かうための視点(中継地点)、ゴールまでの時間を示し、時間配分を自己調整しながら学習に取り組む授業を計画しています。また、子どもたちが夢中になれる学習活動を目指し、教材化できる内容を検討中です。協議では、「時間配分だけでなく、学習内容や調べ方なども自己調整できるようにするとよい」といった意見が出されました。

歴史的分野グループでは、「捉える」→「考える」→「つなぐ」という学習段階を基本とし、学習課題に対しての仮説を立て、見通しをもって追究していく授業を計画しています。協議では、因果関係や時代の流れなどの制限がある中でも、子どもたちが興味関心のもてる学習課題や並列で考えられる学習課題づくりについて意見交換がされました。

公民的分野グループでは、昨年度の全中社の実践を基に、生徒が必然性を感じることができる学習課題の設定や生徒にとって分かりやすい主体的に学習に取り組む態度の評価のルーブリックの作成に重点を置いた授業を計画しています。協議では、人権問題などにどこまで踏み込んで、授業を行っていくとよいかについて意見交換がされました。



今回の小学校・中学校部会で出た意見を基に各分野で1学期の実践に取り組み、その成果と課題を7月27日に行われる小・中合同部会で発表する予定です。





# 子ども輝く社会科授業

魅力あふれる教材を開発し、子どもが輝く社会科授業。



そのような授業を日々積み重ねておられる会員の先生方の実践を紹介します。

## 「来年は鳥羽の火祭りに行ってみよう」

～主体的に学習の問題を解決しようとする児童の育成～ 富士見台小学校 堀田 拡和

4年生「ずっと大切にしたい犬山祭り」において、愛知県に残る伝統的な祭りの中から、二つの事例を扱う单元デザインで実践を行った。事例1は学級全員で犬山祭りを扱い、事例2では個人が自由に事例を選択できるようにした。「犬山祭りと似た道具が見えるから、亀崎潮干祭りにする。絶対おもしろいよ、一緒にやろうよ!」というように、追究する対象に対して興味・関心が高まる姿が見られた。また、選択した事例について追究するために、教科書やインターネット、本、テレビ電話などから、調べたい内容に適した方法を選択できるように、調べ方を多様化した。さらに、学習履歴図を活用して、学習問題の解決に向けた学習の進み具合を自己評価できるようにした。多様な方法で調べる活動と自己評価を繰り返すことで、自ら学習を進める力が育つと考えた。单元末には、「来年は鳥羽の火祭りに行ってみよう。祭りを残すために頑張っていることが他にも分かるかもしれない」という発言があり、主体的に学習の問題を解決しようとする力の高まりを感じた。また、「どの祭りも若い人が減っているという共通した課題があるから、イルミネーションを作ったらどうだろうか」という社会の課題を解決しようとする発言もあり、自分の想像を超える成長を遂げた子どもの姿に驚かされた。調べたい事例を自分で選び、自分に合った方法で調べ、自己評価する活動を繰り返すことで、主体性を高めることができた実感した。

## 学習した内容を活用して、課題を様々な視点で捉え、考えを表現することができる生徒の育成

～新聞を使った反復学習～

田光中学校 佐野 瑞希

社会科という教科は、中学校で学習する教科の中でも、特に「暗記科目」と表現されることが多い。そこで得た知識を土台とした思考力・判断力・表現力を高めることはできない。実際に、定期試験で知識を問う問題は答えられても、記述問題で説明することができない生徒は多い。授業で学習した内容を、学習課題と結び付け、記述によって表現することが大切であると考えた。

自分の意見を書くことがあまり得意ではない要因の一つとして、正解を求めてしまうことが挙げられる。そこで、毎週最初の授業1コマを、新聞の切り抜きを読む時間とし、実践を行った。授業の前半10分間、授業者が予め用意した新聞の切り抜き記事を読み、それについて自分の意見を述べたり、意味が分からない語句に印をつけ、タブレットを用いて調べたり、関連する記事を検索したりする時間とした。実践を始めた当初は、時事の力も養っていきたいという考えから、新聞の1面に載る記事を使用していた。実践を行った当初は、生徒は五輪組織委員会の不祥事の記事を読んで、「最低だと思った」、「日本のイメージが悪くなってしまった」など、感情的に書いたものが多く見られた。そこで、意見が二分されるような記事を取り上げ考えさせたり、発問を「賛成か、反対か」のどちらかを選択させたりして、取り組ませるようにしたところ、自分なりの意見を述べるできるようになり、生徒の成長を感じることができた。

## ～今後の予定～

- 7月 6日(木) 19:00～ 授業づくり講座②
- 7月 18日(火) 19:00～ 第2回ステップアップ研修全体会
- 7月 27日(木) 19:00～ 小・中学校合同部会
- 9月 7日(木) 19:00～ 小学校部会・中学校部会
- 9月 14日(木) 19:00～ 授業づくり講座③

※詳細は例会案内をご覧ください。



LINE登録はこちら↑